



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

『アリストテレス』

倫理・政治・自然学など万学の祖
プラトンの弟子
アカデメイアで学ぶ
プラトン死後
アレクサンドロス大王の家庭教師
アテナイの学園リュケイオン
毎朝、散歩しながら議論
ペリパトス学派
プラトン理想主義
アリストテレス現実主義

アリストテレスはプラトン批判
プラトンは、イデアは現象界から独立する真実在
アリストテレスは現象界を超えたイデアを認めない
事物の本質、個々の個物に内在、それ形相（エイダス）
形相は質料（ヒュレー）の内に潜んで、その在り方を決定
女神の石像、大理石が質料、姿が形相

幸福とは最高善、最も望ましく、最も善いこと
「そうあれば、もうそれでよい」と思える完全充足状態
人間は理性的存在
真理を求めることが本当の幸福
最高善としての幸福とは、観想的な生活

真理を愛し求める理性の働きのよさを知性的徳
人柄のよさなど、勇気や節制などを倫理的徳
これらは生まれながらに備わっているものではない
中庸（メソテース）を習慣づけることで形成
中庸を判断するのは知性的徳の一つである思慮（フロネーシス）
倫理的徳は習慣づけによって身に付く
それ習性的徳
日常で善い行為を行う習慣、それ人柄の良さを形成する

少数の富裕層
多数の貧困層
中間層の安定した人たちが多くいる国
それ、政治を担当する者が中間にある
中庸的民主主義の理想とした共和政治が可能
君主政治は独裁政治
貴族政治は寡頭政治
共和政治は衆愚政治
それでも少数の支配者より多くの人の参加がよい
それが共和政治、より安定度が高い
共和政治、最も中庸を得ていて望ましい

